

狭心症・心筋梗塞ってどんな病気？

循環器科 栗田 政樹

狭心症とは？

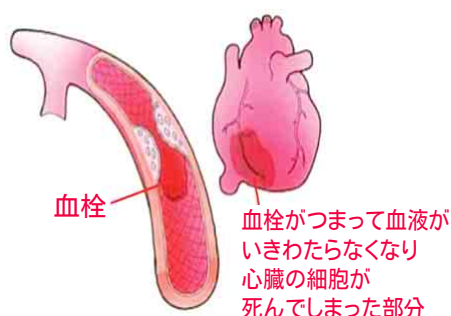
心臓は全身に血液を送るために、1日に10万回以上も収縮しています。この心臓に栄養(血液)を送るための血管を冠動脈(かんどうみゃく)と呼びます。これが動脈硬化で細くなり、栄養を十分に送れなくなると狭心症になります。多くの場合、階段の上り下りや重い荷物を運ぶときなど、体を動かしているときに発作は起こります。一時的に「胸が締め付けられるように苦しくなる」といった症状は狭心症として有名ですが、3割くらいの患者様は「胃が痛い」「肩がこる」「首が絞められる」「あごがだるい」「息が切れる」など、狭心症とはわかりにくい症状のために発見が遅れることがあります。発見が遅れると心不全や不整脈、心筋梗塞になったりして危険なので注意が必要です。このような症状があれば、かかりつけ医にご相談ください。



狭心症の風景

心筋梗塞とは？

細くなった冠動脈に血液の固まりができ、血管が詰まると心筋梗塞になります。狭心症の症状が持続するため、多くの患者様は救急車を呼ばれますが、4～5人に1人は病院にたどり着くまでに死亡します。幸いに病院に到着して治療を受けても、退院までに約10人に1人は死亡します。なぜそんなに死亡率が高いのでしょうか？心筋梗塞になると心臓の筋肉は壊死(細胞が死ぬこと)します。壊死した筋肉は収縮なくなり、「心不全」や「ショック状態(血圧が著しく低下すること)」になることがあります。また、「致死性不整脈」により心臓が停止してしまうことがあります。また、壊死した筋肉は豆腐のようなため、心臓が破れて「心破裂」を起こす危険性があります。不安定狭心症は心筋梗塞の一手手前の状態です。不安定狭心症の場合、緊急で入院して心筋梗塞になるのを食い止める治療をしなければなりません。



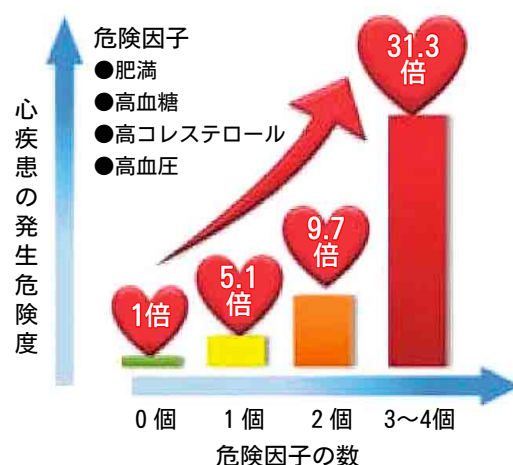
心筋梗塞は動脈硬化と血栓が原因

検査および治療は？

まず、通院検査(心電図、心臓超音波検査、血液検査、心筋シンチグラフィー検査、冠動脈CT検査など)を行います。これらの検査で狭心症が本格的に疑われたら心臓カテーテル検査を行い、冠動脈のどの部位が狭くなっているかを調べます。これらの検査結果をもとに、①飲み薬による治療、②心臓カテーテル治療(風船やステントで冠動脈を広げる治療)、③心臓バイパス手術の中から治療方法を決めます。心筋梗塞が疑われたら緊急で心臓カテーテル検査をしなければなりません。心臓カテーテル検査は心臓にカテーテルという細い管を挿入する検査のため入院が必要です(関西労災病院では2～3泊)。検査の危険性を心配される患者様がおられますが、命にかかわる合併症の発生率は非常に小さく(0.1%以下)、狭心症や心筋梗塞の恐ろしさとは比べると遙かに小さいものです。

狭心症・心筋梗塞を予防するためには？

高血圧・高脂血症・糖尿病・肥満・喫煙があると動脈硬化の進行は加速します。これらを幾つも持っている、狭心症や心筋梗塞になる危険性は急激に上昇します。また、血縁者に狭心症や心筋梗塞を経験された方がおられる場合も危険性が高いと言われています。逆にタバコをやめ、これらの病気をしっかり治療することは狭心症や心筋梗塞の予防につながります。



冠危険因子の数と狭心症・心筋梗塞の発生頻度